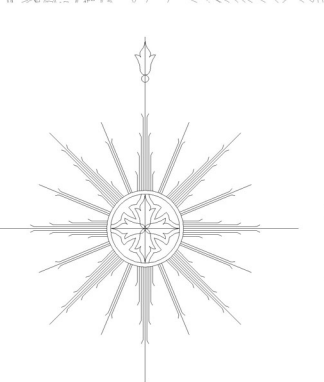


信濃川水系信濃川十日町区間 内外水統合の水害リスクマップ
(浸水発生)【現況河道】1 / 2



凡 例

想定される浸水範囲

- 高頻度 (1/10)※)
- 中高頻度 (1/30)
- 中頻度 (1/50)
- 中低頻度 (1/100)
- 想定最大規模

※) 1/10は毎年、1年間にその規模を超える確率が1/10(10%)であることを示しています。
1/30～1/100も同様です。

- 市町村界
- 河川等範囲
- 浸水想定区域の指定の対象となる洪水予報河川(直轄区間)

1 説明文

- この水害リスクマップは、流域治水の推進を目的として、国管理河川に加えて都道府県管理河川や雨水出水による氾濫についても考慮し、年超過確率1／10、1／30、1／50、1／100及び想定最大規模の降雨により浸水した場合に想定される多段階の浸水想定図を重ね合わせたものであり、年超過確率ごとの浸水範囲(浸水発生)を示した図面です。
- この水害リスクマップは、現況の信濃川等の河道や洪水調節施設、下水道及び各種排水路の整備状況等を勘案して、年超過確率1／10(毎年、1年間にその規模を超える洪水が発生する確率が1／10(10%))、年超過確率1／30(毎年、1年間にその規模を超える洪水が発生する確率が1／30(3.3%))、年超過確率1／50(毎年、1年間にその規模を超える洪水が発生する確率が1／50(2%))、年超過確率1／100(毎年、1年間にその規模を超える洪水が発生する確率が1／100(1%))の洪水により信濃川等の氾濫及び雨水出水による氾濫が発生した場合の浸水の状況をシミュレーションにより算出したものです。
- シミュレーションの前提となる降雨や河道条件、地形条件等によって結果は異なり、あくまで一つのシミュレーション結果ですので、この水害リスクマップに示されている年超過確率と浸水頻度が異なる場合や、浸水範囲に含まれていない地区においても浸水が発生する場合があります。
- この水害リスクマップは、前提となる降雨の確率規模や時空間分布、計算手法等の違いにより、洪水浸水想定区域図や内水浸水想定区域図、河川整備計画の策定時又は各種事業計画立案時に事業効果を説明するために用いたシミュレーション結果等とは異なる場合があります。
- 想定最大規模の浸水範囲は、水防法に基づき平成28年5月等に指定・公表したものを表示しているため、河道条件が異なります。

2 基本事項等

- 公表年月 令和8年7月10日
- 作成主体及び対象となる河川 国土交通省北陸地方整備局
・信濃川河川事務所：信濃川水系信濃川
- 実施区間 信濃川河川事務所
・信濃川十日町区間
左岸：新潟県十日町市宮中己地先から新潟県長岡市西川口地先まで
右岸：新潟県十日町市小原辛地先から新潟県長岡市東川口地先まで

(4) 算出の前提となる降雨

年超過確率1／〇の 流域ごとの総雨量	1／10	1／30	1／50	1／100	想定最大 規模
信濃川(十日町地区) ：2日間	129mm	152mm	164mm	180mm	362mm
田川、晒川、みだれ川 ：24時間	148mm	181mm	197mm	217mm	813mm
川治川 ：24時間					121mm /1時間
雨水出水：6時間	91mm	118mm	132mm	152mm	—

- 河道条件 現況
- 下水道等条件
・施設条件：現況
・その他計算条件等
このシミュレーションは、下水道等の排水施設は一定の排水能力があるものとみなし、地形の高低差などから浸水が想定される範囲やその深さを求めたものであり、時間経過に伴う下水道等の排水施設への流入や溢水を考慮した詳細なシミュレーション結果とは、想定される水深・浸水継続時間が異なる場合がある。
下水道等のシミュレーションにおいては、排水先の水位を、対象降雨に応じた水位に設定。
排水ポンプ・水門・樋門等は操作規則に応じた排水条件を設定。
- 関係市区町村 長岡市、小千谷市、十日町市
- その他計算条件等
・下水道等の氾濫解析については、氾濫域のメッシュ格子に直接降雨(降雨量に流出率を乗じた値)を与える手法としており、浸水範囲が過大となるおそれがあるため、10cmのメッシュ格子は「浸水なし」と評価している。

※この水害リスクマップは水防法に基づく図ではありません。

測量法に基づく国土地理院長承認(使用)R7JHs 722

1:25000

